

廃棄物処理ビジネスの海外展開

(株)荏原製作所 田米智加之
営業本部海外事業統括副統括

1 事業の現状

当社の2001年の売上構成比率をみると、水処理施設や廃棄物処理施設といった環境ビジネスが約50%と事業の大半を占めており、ポンプ、送風機などの回転機械を主体としたビジネスが34%、半導体業界向けの真空ポンプ、シリコンポリッシャーなどの分野が16%となっており、環境は当社の重要なキーワードであり事業の中心となっている。

海外における環境ビジネスという点を考えると、従来からのポンプ機場などを除けば、水処理や廃棄物処理がその主なものとなる。廃棄物処理といっても非常に幅広い分野であるが、埋立地の建設を除いて中間処理からの各種プロセス全般を当社では扱っている。事業形態としては、ODAのほか直接現地企業とパートナーシップをつくり、プラント建設を行っている例もある。欧米に対しては技術をライセンスしての事業展開も行っており、ライセンスした例としては当社の流動床焼却技術やガス化溶融技術がある。

欧州のエンジニアリング会社に流動床焼却技術を供与した結果、イタリア、フランス、ドイツ、ロシア、スペイン（写真参照）などに建設実績を有している。欧州はストーカ炉を始めとする焼却炉技術の世界的中心であるが、弊社の技術が認められての建設となったものである。アジアではすでに多くの日本のメーカーが進出しており、特に焼却炉の市場としてのポテンシャルは高い。当社も台湾、韓国、シンガポール、中国などに実績を有している。



スペインマドリッド市ごみ焼却プラント（660トン/日）

2 海外展開の課題

ODAにおいても必ずしも日本のメーカーが受注できるとは限らないが、アジアにおいては特に価格競争が激しい。日本の技術を海外で展開する場合には当然、海外市場の既存会社との競合となるわけで、よほど特長のあるものであるか、価格競争力が優れたものでなければならぬ。今後、循環型社会を実現持続させるためのゼロエミッション技術は非常に重要なキーワードとなる。当社はこのキーワードに沿った優れた技術開発に全力を注ぐとともに、価格競争力の向上に努めている。広い意味でのアライアンスも、その手段の一つと考えられる。

当社は海外展開強化のために千代田化工建設、東洋エンジニアリング及び三井物産と共に海外環境分野専門のエンジニアリング会社である(株)エンバイロメンタルエンジニアリングを2001年4月に発足させた。同社は専門エンジニアリング企業の持つEPCコントラクターとしてのプロジェクトマネジメント力、総合商社の持つ広範なマーケティング力、資金調達力と当社の環境技術を有機的に結合することによって海外でのエンジニアリング事業展開に資することを目的に設立され、今後の展開が期待されている。

3 畠山基金

前述のビジネス展開とは別に、当社は1989年に荏原畠山基金を設立した。本基金は主として、東南アジア諸国との相互理解と友好関係を深めながら発展途上国の技術の裾野を広げるために設立されたものであり、各地の大学等を拠点とした環境技術を含めた短期技術講座のプログラムでは、セミナー、ワークショップ、研修コースなどを15カ国において大小合わせて114回開催し、累計5,200名を越える参加者を得るに至っている。

海外環境協力という点で考える場合の人、金、物の援助に加え、民間企業としてできる最大の貢献は技術移転の分野である。それにしても途上国側での受け皿なしにそれを実現することはできない。地道な努力が今後とも必要と考えている。

（ため ちかし）